

## 会 議 録

会議の名称	西東京市総合計画策定審議会第4回会議
開催日時	平成13年11月22日(木) 午前9時30分から11時30分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎5階502会議室
出席者	倉持委員、武田委員、竹内委員、堀越委員、山本委員、小林委員、磯村委員、板垣委員、畑委員 (川村委員、永田委員、荒川委員欠席) (事務局)企画課 池澤主幹、櫻井主査
議 題	(1)西東京市総合計画策定審議会第3回会議の会議録について (2)西東京市総合計画策定における基本項目について (3)人口推計調査について (4)新市建設計画について (5)その他
会議資料	(1)西東京市総合計画策定にあたっての基本項目について (2)将来の人口推計の目的と進め方 (3)田無市・保谷市合併に関する投票方式による市民意向調査の記録
会議内容	<input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
発言者名	発言内容 (西東京市総合計画策定審議会第4回会議の会議録について)
会長	<p>それでは計画策定審議会第4回会議を開催します。川村委員さんと永田委員さんはご欠席の通知をいただいています。あと空席になっております副会長のところと板垣議員さんは今日お見えになると思いますので、会議をはじめさせていただきたいと思います。</p> <p>それでは、会議次第2番目になりますが、西東京市総合計画策定審議会第3回会議の会議録についてです。あらかじめ、委員の皆さんのお手元にお送りしてあったと思いますが、修正箇所等があるかご意見をお伺いしたいと思います。</p>
池澤主幹	<p>1箇所訂正をお願いします。5ページの中ほどの会長さんのご発言の中の一番下でございますが、差し当たっていうところの次が10月22日となっておりますが、10月を11月にご訂正いただきたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
会長	<p>よろしいですか。それでは、ご承認いただいたということにさせていただきます。</p>
会長	<p>(西東京市総合計画策定における基本項目について)</p> <p>それでは会議次第の3番目、西東京市総合計画策定委員会基本項目についてということですので、事務局から説明をお願いします。</p>

池澤主幹

(資料1に基づき説明)

それでは、総合計画策定にあたっての基本項目についてという内容に基づきましてご説明をさせていただきます。すでに本年8月の31日の第1回の審議会におきまして、市長より審議会の会長宛てに、西東京市総合計画策定にあたっての基本方針について諮問されました。諮問の内容としては、西東京市の新たなまちづくりを確実に推進するために、西東京市総合計画を速やかに策定をする必要があるということから、基本構想策定にあたっての基本的な考え方について審議会の委員の皆様にご教示願いたいという内容でございます。したがって、今年度中に、基本構想を策定するにあたっての基本方針を策定をし、来年度からの計画策定に役立てたいということでございます。お手元でございます資料の中には6項目、基本構想の項目として柱立てをしています。今回お示ししている柱立てについては、基本構想に盛り込むべき内容の中で、基本構想には施策体系が入ってきます。施策体系等については来年度、基本構想の中でご審議いただくということを前提に、いわゆる施策体系を除く基本的な部分について、今回基本方針というかたちで決めていき、来年度からの基本構想の策定にこの考え方を役立てていきたいということでございます。

(計画の趣旨・期間・構成)

西東京市としてはじめて総合計画を策定するというので、この総合計画策定の重要性、必要性、そういったものを計画の趣旨の中にまず位置付けてまいりたい。計画の期間は、社会、経済動向を踏まえ、あまり長期に渡る計画というのはこの時代の実効性がないのではないかとことから、社会、経済情勢も踏まえ、計画期間を何か年にするのか、また、計画のスタート年度を何年度にするのか、そういった部分をこの基本方針の中で決めていきたい。構成については、基本構想が土台にあり、その上に基本計画が成り立ちます。さらに実効性を持たせた実施計画、この3段構想になっているというのが一般的。実施計画には、何らかの西東京市のオリジナルのような実効性を持たせるものの位置付けを明確に示していく。

(新市建設計画の位置付け)

合併における新市建設計画の位置付けというのは合併の公約の1つになっている。非常に重要な位置付けになっている。

総合計画がない現在の西東京市においては、新市建設計画が1つの指針になっている。総合計画策定にあたっても新市建設計画を明確に位置付けていきたいという内容である。

(市民参加の手法、情報公開)

来年度からの計画を策定するにあたって、市民参加の手法を基本方針の中で明確に決めていきたい。フォーラムを開催するとか、また、まちづくり市民会議とかの活用を案として提案する中で委員の皆様のご意見を伺いたい。

(庁内の推進)

総合計画策定にあたって庁内の推進体制、行政内部での推進体制をどのように構築していくのか、またこの推進体制と審議会との関連付けをどのように位置付けていくのか、こういった部分を明確に基本方針の中で決めていくという内容である。

(将来人口の捉え方)

計画を検討する中で、人口をどのように考えていくのが基本になっていく。

これから人口推計を進めていくが、1番の計画の期間を明確に定めた上で、計画の期間をベースに将来人口の目標を設定して人口推計を実施する。

後ほど人口推計の目的手法等については資料2の方で説明させていただきます。

	<p>(市民意識調査)</p> <p>合併における投票方式による意向調査の結果を、どのように総合計画に反映させていくかこの辺を明確に定めていきたい。</p> <p>投票方式による意向調査を実施するにあたっては実施要綱を定めている。</p> <p>実施要綱の第3の中で、調査の対象区域、調査項目及び集計区分ということで、新市に期待する施策の方向性に関する事で意向調査を実施している。</p> <p>次の35ページの第4の調査結果の協議への反映という中の第3号の中で、第3第1項第3号で定める調査項目について結果を尊重し、今後の施策方針等に反映させるものとするという定めがある。この内容に基づいて調査を実施したが、調査結果は31ページをご覧ください。</p> <p>31ページに問1、問2、問3とあるが、問3のところ为新市に期待する施策というところである。</p> <p>この中で一番多いのが、田無市・保谷市とも高齢者福祉の充実で50%を超えている。</p> <p>第2位が安心して歩ける道路の整備、第3位は環境対策の推進、第4位が公園緑地の整備である。</p> <p>この調査結果は地区別に集計をかけていて、33ページに載っている。</p> <p>この中で高齢者福祉の充実というのはどこの地区でも多いという状況である。</p> <p>ただ、一部の地域では若干動きがあり、投票所という田無の第二中学校、谷戸第二小学校、谷戸小学校という谷戸地域においては第1位が、高齢者福祉の充実もしくは安心して歩ける道路の整備といった1位2位が逆転している地域もある。</p> <p>特に谷戸小学校では第1位が安心して歩ける道路の整備、第2位が高齢者福祉の充実、第3位が公園緑地の整備という順序で、トータルでかけた順序と若干ずれが出ている。</p> <p>また、同じように下の方になるが住吉保育園、住吉小学校という、この住吉地域では第1位から第3位までが、高齢者福祉の充実、安心して歩ける道路の整備、公園緑地の整備という内容である。</p> <p>このように地区別に集計をかけ、地域の特殊性や結果を分析する中で計画に反映できればと思う。</p> <p>これらを基本方針の中で明確に打ち出していければと考えている。</p> <p>このような内容を次回以降、提案する中で委員の皆さんのご意見を伺いたい。</p> <p>今回は、6項目の柱立てをしているが、これ以外に基本方針として、定めて行く必要があると思うものがあれば次回以降ご意見をいただきたい。</p>
会長	<p>ご意見ご質問がありますか。</p>
会長	<p>(人口推計調査について)</p> <p>特になければ会議次第の4番目の人口推計調査について、事務局から説明していただきたい。</p>
池澤主幹	<p>資料2の将来人口の目的と進め方に基づき説明。</p> <p>人口推計の概略については第2回会議で説明したが、資料2は総合計画策定にあたって人口推計をどのようにとらえて、最終的に総合計画の内容を反映させた人口推計をどのように作成していくかについて、資料としてまとめたものである。</p> <p>・人口推計の目的</p> <p>1点目は人口推計の目的ということで、人口推計は総合計画の目標年度及び将来において、自治体としての西東京市を構成する基礎としての人口の動</p>

	<p>向、いわゆる増減の傾向や年齢階層の構造といったものを推測する。</p> <p>2点目がこの人口推計で得られた数値については、各種政策・立案の前提条件となっている。</p> <p>西東京市の持続的な成長の阻害要因となる推計値が算出された時は政策目標を設定するなどして、問題を未然に防止することが可能になる。</p> <p>政策目標を設定する前提条件としてこの人口推計を使うことができる。</p> <p>3点目は住民税や各種保険など、歳入を計算する根拠となる。</p> <p>4点目が行政サービスの量及び質を推計する場合に使う。</p> <p>内容は保育所や小中学校、保健医療福祉といった特定年齢を対象とする事業について、この人口推計を使って推計をする。</p> <p>・人口推計の方法</p> <p>人口推計の方法としては、一般的な方法として国勢調査をベースにした方法と要因を用いて行う。</p> <p>国勢調査については昭和40年にさかのぼり、それをベースに5年毎の調査を基本に人口を推計する。</p> <p>もう1つは田無市・保谷市において昭和40年ごろからどういった大規模な開発が行われたか、社会的要因としてどういった人口の増加が見られたのかを社会的要因として分析する中でそれも加味して将来人口を推計していく。</p> <p>・人口推計と総合計画策定の関係</p> <p>総合計画策定との関係の中で、まず、人口推計の実務としては、12月にかけて基礎データの収集をしていきたい。</p> <p>国勢調査のデータや過去の宅地開発による大規模な開発といったデータを収集中で、自然要因・社会要因に関するデータを収集する。</p> <p>これに基づいて人口推計の作業に着手して、今年度末には人口推計作業が終了する。</p> <p>この人口推計と総合計画策定の関連であるが、今回示している人口推計の目的・手法等を確認していただき、データが収集できたら1月に人口推計の作業に入りたい。</p> <p>この人口推計作業が終わった段階で、この考え方を基本方針の柱立ての中に加え、次年度以降の計画策定の基本的な資料としたい。</p> <p>最終的に本年度行う人口推計はあくまで国勢調査をベースにして、社会的要因としては宅地開発等の大規模開発を要因としている。</p> <p>今後、来年度から策定する総合計画の中では、人口の増減を左右するような施策を取り入れる場合は、その施策をもって最終的な人口推計の微調整をかけたい。</p> <p>その人口推計で最終的に出た結果と、総合計画が策定された内容とを、整合が取れるような人口推計を進めていきたい。</p> <p>人口推計の進め方について事務局から説明があったが、ご質問等ございませんか。</p> <p>ここにコーホート要因法というのがありますが、これは簡単に言えばどんなことか。</p> <p>コーホートというのは性別と5歳階級別、5歳ごとの階級で人口を推計するという考え方である。</p> <p>各コーホートの変化が5歳毎に1つの人口が固まっていて、この人口がそのまま5年後には次の階層に行くという人口推計のやり方である。</p> <p>ここに自然増減の要因とか、社会増減の要因とかを一定の率で増減させながら人口推計を行っていくという手法である。</p>
会長	
A委員	
池澤主幹	

B 委員	<p>意見が2つあるが、1つは基本項目の説明の中で、自治体の基本計画というのは企業の場合と違うと思う。</p> <p>戦略とか計画をたてる場合は調査分析をして、基本戦略の方針をたてて、実際に実施に移す。</p> <p>実施に移したあと問題になるのは、実施されているか、実施した効果があるのかということ、モニタリングを確立しておかなくては、やりっぱなしになる。</p> <p>途中期間で見直しして計画自体を微調整していくという循環を確立しておかなければ、計画というのはいかぬ。</p> <p>自治体も同様だと思う。モニタリングというか、実施した後どう監視していったらいいか、それをどうフィードバックしていくかの仕組みをあらかじめ決めておいたほうがよいと思う。それを基本方針の項目に追加しておいた方がよいのではないか。</p> <p>2つ目は、人口推計の方法は、統計的な手続きによる違いが、今までの推計値の延長線上の数字を出すとそういうことだと思う。</p> <p>計画をたてる時には将来の理想像、過去の実績の集積値が1つのデータになる。</p> <p>一方でこれくらいの市で、こういう環境であればこれくらいの人口密度や規模が望ましいという、あるべき姿というのがある。それを調べ、それと実績値を比べるとどうなるか。ギャップがあればそれをどう政策に反映して、努力すべきかということが出来る。</p> <p>実績だけという数値を参考にするとあるべき姿でないと思う。</p>
池澤主幹	<p>1点目のご意見は、評価という考え方ではないかと思う。</p> <p>実はこれから基本方針を定めていただく中で、この資料の中にも入っているように、西東京市のオリジナルというこの部分で、今、B委員さんがご指摘されたような考え方を明確に打ち出していきたい。</p> <p>総合計画の構成でも基本構想・基本計画・実施計画がある中で、この実施計画というのがいわゆるより実効性を持たせるための計画であるという位置付けをとるのであれば、その実効性を持たせることも必要だが実行した場合どう評価して、どう見直しを掛け、発展性を持たせた実効性をそこに加味していくのかという、西東京市のオリジナルの総合計画のサイクルを構築していきたい。</p> <p>ご指摘いただいたような形で、柱立てを一本設けるのか、構成の中で考え方を取り入れるのか検討させていただきたい。</p> <p>いずれにしても事業を評価する事は考えていきたい。</p> <p>2点目のご意見については、今回の人口推計がはコーホート要因法を使って、過去の推計等で伸ばしていくという手法だが、本来西東京市のあるべき姿をやるなかで、その考え方も入れてやっていきたい。</p> <p>今後検討させていただきたい。</p>
会長	<p>今のB委員さんのご発言で、1点目については、基本項目の柱は今日の段階では6つだが、中身を検討する段階で場合によってはそれを柱に持つていくということにしたいと思えます。</p> <p>2点目についてはご意見として取扱いさせていただきたい。</p> <p>ただ自治体の人口というのは、人口を抑制したり増加を図るというのは難しい問題である。</p> <p>お話はよいご意見であると思うが、たとえば、決めたからといって、抑制するために住むなどはいえない。</p>
B 委員	<p>計画を作ったり実施していくのは、理想に向けていくわけだから、理想が</p>

	<p>難しいといったら、計画をたてる意味がない。 理想ではなく現実にしていくという過程が必要。あらゆる施策を使えばできないことはないと思う。</p>
会長	<p>人口というのは100万人を超えると政令指定都市になり、30万人を超えると中核都市で、20万人で特例市となる。20万人というのはかなり意味を持った数字になってくる。特例市になると若干権限が増える。</p>
A委員	<p>将来、市町村数3000いくつを1000にしたいという話がある。 西東京市は20万人にもう少しであるが、20万人ということ意識しているんな計画に踏み込むのかどうか。</p>
C委員	<p>建築確認をおろせる人口が20万人である。しかし18万人でも力があれば認められる。 私はまちづくりというのは、自分たちに建築許可の権限を持った方がよいと思うが、開発に許可をおとすような市だと逆効果である。 先ほどのB委員の話でもあったが、人口の成長管理という話を聞くが、18万人で建築許可の権限を持てる市になって、35坪以下の宅地開発はしないとか、マンションも公園のスペースをいくら持たなければならぬとか、そういう力を持つとまちづくりが自分たちでできると思う。</p>
会長	<p>中核市になるとかなりまちづくりの権限が移譲される。 この面積規模で人口30万人規模というのはかなり密になる。現実性はない。 特例市は建築確認があるのか。</p>
池澤主幹	<p>武蔵野市は13万人くらいだが建築確認をしている。小平市も16万人だが建築確認をしている。</p>
会長	<p>東京都との折衝問題であると思う。 何平米以下ということでしょう。 建築確認についてもこの計画の中で具体的な施策としては打ち出すべきである。 人口推計でほかにご意見ありますか。</p>
D委員	<p>資料の2の中で、政策目標という言葉があり、これは重要だし安心した。これから自治体間競争は起きると言われている。住みやすい自治体は生き残る。 少子化の中で両親双方のどちらの家に住むかとなると、子どもが住む所を選ぶという時代である。子どもはどっちが住みやすいかという事で選ぶ。 この資料にも人口推計の目的の中で、政策目標というのが掲げられている。この策定の中でどうしたら住みやすいと市民が思うか。 これから西東京市が存在を対外的にもアピールしていく中で、住んでいる人が西東京市は住みやすいところだと言ってくれることが一番である。逆にそう言ってくれる市民の人たちがよいまちを作ってくれる。 ぜひそれを組込んで、20万人で権限が得られるのなら、それを目標に入れていくというのも1つの考えである。 それと事務局から説明いただいた市民意向調査の結果では、市民は高齢者福祉の充実というのを望んでいる。2番目に安心して歩ける道路の整備というのを望んでいる。3番目に環境対策。 この辺をどう組込んでいくのかを含めながら、政策目標を検討する必要が</p>

	ある。
会長	遊歩道の側に2箇所、10戸くらいの建売住宅の開発がある。自宅の側にも2箇所の建売住宅の開発がある。最近社会的に建売の開発が多い。 1つは地主の好意であった公園がつぶされ、建売になった。 そういう意味では抑制するとか、また、反対に促進するとか、人口推計というのは非常に大切である。 新町付近は開発が増えている。
C委員	ひばりが丘団地もできる。
E委員	こんなに家やアパートがたくさんできたのに、全体の人口は増えていない。側に建売ができて子どもたちはいない。親子で安心して住めるようなまちづくりをしなければならない。
会長	世帯あたりの人口は2人くらいである。家の数が増える割には人口が増えない。 国勢調査で伸びている過程というのは、自然増減や社会増減がある。社会的要因が非常に多い。 他に何かありますか。
F委員	政策目標を設定するのはどこですか。
池澤主幹	当然、総合計画の中でも政策目標というものが設定できる。
F委員	人口推計やデータをふまえた話し合いもできるということか。
池澤主幹	はい。
会長	ほかにご意見も無いようなので人口推計についてはこれで終わります。
会長	(新市建設計画について) 会議次第5番目の新市建設計画について事務局から説明願いたい。
池澤主幹	「田無市・保谷市合併の記録」に掲載している新市建設計画の基本理念、6つの将来像、4つの重点施策について説明。 第2回会議で新市建設計画の策定計画と総合計画の関連について説明した。 今現在、西東京市では新市建設計画は一つの指針になっているということと、合併の公約になっているということ、ご理解をいただいたうえで基本方針の中に盛り込んでいきたい。 今日を含めて、数回でポイント的な部分をご説明するお時間をいただきたい。 今日は190ページの新市建設計画の基本理念と、6つの柱と4つの重要施策を説明したい。 新市計画の基本理念については、「21世紀に拓き 緑と活気にあふれ 一人ひとりが輝くまち」というのが基本理念である。 経緯は合併の任意協議会の時、新市将来構想策定委員会を立ち上げ、市民の方から生活課題を聞き出し、それらを整理することにより、6つの施策体系を形作り、それを総括したのが基本理念である。 それで6つの柱というのは、新市の将来像にのっている。 1つ目は、「地域の中で支えあう福祉のまち」。高齢者や障害者など社会的

<p>会長</p> <p>D委員</p>	<p>弱者に対して、やさしいまちを実現するといものである。</p> <p>2つ目が、「環境にやさしく美しいまち」ということで、緑等花にあふれ市民に安らぎを提供できる美しいまちを実現するといものである。</p> <p>3つ目が、「若者を育てるまち」で、安心して子どもを育てる環境を整え、子どもたち一人ひとりが尊重され、活気に満ちたまちを実現するといものである。</p> <p>4つ目が、「安全で快適なまち」。道路整備、駅前整備等市街地整備をさらに進めるとともに、通学環境の安全性の向上と防災機能を向上させて、災害にも強いまちを実現するといものである。</p> <p>5つ目が、「新しい産業が育つまち」ということで、新しい事業や企業が育ちやすいまちを実現するといものである。</p> <p>6つ目が、「市民が参加する活力あるまち」。行政と市民が共に行動することができ、市民がまちづくりに積極的に参加できるまちを実現するといものである。</p> <p>これが6つの柱として、新市基本計画の基本的な柱となっている。</p> <p>この柱を実現するために、4つの基本的な考え方に基づいて進めていく。</p> <p>1つ目が、市民参加のまちづくり。</p> <p>2つ目が、生活圏を重視したまちづくり。</p> <p>3つ目が、仕組みを重視したまちづくり。</p> <p>4つ目が、重点施策によるまちづくり。</p> <p>次に192ページ。新市の施策。基本理念である「21世紀を拓き 緑と活気にあふれ 一人ひとりが輝くまち」、これの実現を図るために、6つの将来像を設定して、それに施策体系をつけ全体像となる。</p> <p>この中で重点施策というのを4つ定めていて、当時の協議会の中では、両市の市民が融和できる事業、共有できる事業、これを4つ定めた。</p> <p>この重点施策についてまず進めていこうという内容である。</p> <p>4つの中の1つが合併記念公園の整備で、東大原子核研究所の移転に伴い45000平米の用地を取得して、シンボリックな公園を整備するとい計画である。</p> <p>2番目がコミュニティバスの運行で、交通不便地域を解消して公共施設の利用のしやすさを図る。両市民の交流を促進する。</p> <p>今年度に4ルートのオープンを目指して準備を進めている。</p> <p>3つ目が、地域情報化の推進という事で、インターネットが普及した時代において、市民サービスの向上や市民参加をすすめるために、地域情報化を活用して、公共施設や図書館の予約システムの導入、ホームページの充実、住民票や各種証明書が端末でとれるような情報化をすすめたい。</p> <p>本年度は公共施設の予約システムや、図書館の予約システムの開発に入っている。</p> <p>ホームページについては合併時にすでに導入しているので、それについては更に充実を図っていききたい。</p> <p>最後に4点目に、ひばりが丘駅周辺のまちづくりということで、市が入り組んでいたために整備が難しかったひばりが丘駅周辺を、総合的に整備していこうということで、本年度と来年度にかけて北口南口の整備計画を策定している。</p> <p>次回以降も時間をいただきながら、ご説明させていただきたい。</p> <p>それでは今の説明についてご質問等ありますか。</p> <p>192ページに重点施策がのっているが、ここにあがっているものも、この総合計画策定審議会でも検討していくと思うが、先程の西東京市全体で一番にあがっていたのは高齢者だった。</p>
----------------------	--

	<p>重点策に高齢者に対してのものが見えない。 他にいくつか足していくことがあってもよいのではないか。</p>
<p>会長</p>	<p>ただ、新市建設計画というのは法律に基づき、合併協議会で決定をしている。これを修正するには市議会にかけなければならない。そういう性格のもので、あえて私もお質問と申し上げたわけである。 住民が望んでいることがこれに入っていないとお気づきの方がいるかもしれないが、修正については別の手続きがある。我々の権限外である。</p>
<p>B 委員</p>	<p>これについては理解をすればよいということか。これを踏まえて、この趣旨は総合計画の中に取り入れましょうということだと思う。 そういう意味で全く反対する事はできないが、D委員と同じ印象は持っていて、基本方針と施策の首尾一貫性はどの辺にあるのかという印象はある。それはこれからつくる総合計画に反映させればよいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>事務局から説明したらどうか、重点施策は合併特例債の対象だと思うが。</p>
<p>池澤主幹</p>	<p>新市建設計画というのは固まったもので、これからつくる総合計画というのは新市建設計画を包含して、更に発展性を持たせるというものである。 新市建設計画の位置付けは、「市町村の合併の特例に関する法律」という、いわゆる合併特例法に基づく計画であり、これから皆さんがつくるのは地方自治法に基づく基本構想である。この法体系の違いがある。 合併特例法に基づく新市建設計画の位置付けは、新しい市になった場合に方向性を持つということと、この新市建設計画に位置付けられた事業は合併による各種財政支援を、有利に使うことができるというものである。 この新市建設計画に位置付けられていないと、合併特例債とか国からの合併補助金がつかないので、あくまで財政支援の裏づけとなるような事業をこちらに盛り込んでいくという内容である。</p>
<p>C 委員</p>	<p>ひばりが丘駅のことだが、南口の道路は個人の土地だという事で、計画を立てても個人がどう動くかわからない。 市でもひばりが丘駅周辺の計画を立てているということだが。 ひばりが丘駅の北口に行ってみたが、新座の方は広い道路で整備されていて、西東京市に入ったとたんがちゃがちゃである。 あの辺の計画を立てているということだが、武蔵境の南口の開発の時などは、市民に計画段階でやらせ、まとまらないと思ったが今はまとまっている。 そういう手法でやるのか、計画を立てても進まなければ意味がない。</p>
<p>池澤主幹</p>	<p>ひばりが丘駅周辺については北と南に分けて整備計画をつくっている。南口については本年度いっぱい整備計画を策定する考えで、想定されるのはタウンウォッチングの中でもご覧いただいた又六の都営住宅、あそこが更地になっている。それと隣接した用地を市が先行取得している。あのあたりを整備していくのが第一に着手できるところである。 後は西武との関係と地元の方との関係で、事業がどの程度着工できるかである。当面は南口の整備計画と又六をまず着手していくことになると思う。</p>
<p>C 委員</p>	<p>北口のことだが、東京都の重点施策に入っていると思うが。 最重点施策ではないと思うが、重点施策には入っていると思う。</p>
<p>池澤主幹</p>	<p>企画課の方には情報として入っていないが、確認しておきます。</p>

B 委員	ホームページというのが出てきたので、ホームページをもっと充実させて いただきたい。
G 委員	コミュニティバスが4ルートということだが、見かけたことがない。 旧保谷市役所に停まっているのを見かけるが、走っているのは見たことが ない。4ルートというのはこれから増えるのか、時間的に本数が増えるのか。
池澤主幹	コミュニティバスの運行計画については、保谷市でやっていたキャンバス だと思う。キャンバスについては保谷の庁舎から東伏見の駅を通過して、小金 井公園に行く。 今年度予定している4ルートについては、まず駅を結んでいこうというこ とで、保谷の北側を回るルート。 2つ目は、保谷駅から保谷庁舎まで行って、東伏見の駅まで行くルート。 3つ目は、東伏見の駅から小金井公園を回って、南側から田無駅に入ってく るルート。4つ目は、田無駅から出て多摩六都科学館まで行くルート。 この4つのルートについて本年度末の運行を目指して準備を進めている。 1つのルートごとにバスを2台導入する。 一時間に何本というのはこれからの計画である。
会長	今までのキャンバスは30分に一本である。昼間は1時間に1本くらいであ る。せめて15分に1本くらいならよいが。
G 委員	バスも路線バスが細かく走っていないし、こもればホールを学校が使うと き不便である。 利用したいと思う方はイベントがあると特に需要はあると思う。
C 委員	この6つの柱の中の細かいことというのは今後説明していただけるのか。 市民の参加というところで市民と協働というのはどういうイメージか。ま た、コミュニティの形成というのもどういうイメージなのか。
池澤主幹	今年度はまちづくり市民会議というのを立ち上げ、市民公募の方を10人で 市民参加条例、仮称だが、つくろうということで、月2回から3回開催して いる。今年度中に作成して、最終的には議会に提案できるようにしている。 今度骨子が固まり、市民にお知らせしようということで、ワークショップ が12月2日に開催される。その時に更にご意見をいただき、内容を更に整 備していこうということである。 その中で市民参加の部分を条例で定めて、明文化していきたい。 手法自体はいろんな形でやっている。これについても今年度の市民参加を 考える中で、条例という形で制定してなかったもので、基本方針という形で定 めて、市の審議会とか委員会とかに市民の方を柱として入れていこうとい うことである。 そういったものも条例で定めていこうということである。
会長	ほかにありますか。
G 委員	コミュニティのイメージはどうか。
池澤主幹	実際難しいものがある。地域によっていろいろな考え方がある。三鷹市 のようにコミュニティセンターを中心とした形成もあるし、従来田無市も保谷 市も地区会館とか集会所やコミュニティセンターがある。 トータルで考えた場合、コミュニティの考え方をどうするかということも

	<p>今後、検討していただきたい。</p>
G委員	<p>コミュニティを充実するためには何らかの予算を立ててやっていくということか。</p>
池澤主幹	<p>それは今後の計画の中ですすめていく。</p>
会長	<p>コミュニティというのは定義づけしない方がよいと思うが。 今後ITが進んでくれば、場所にとらわれないインターネットを活用したコミュニティも考えられる。 その辺は規定概念をつくるのは難しい。</p>
E委員	<p>住みやすいまちづくりというところで、顔の見える範囲の地域をどうとらえ、そこでコミュニティができていくところを施策でつくっていく。そのためにはどうしたらよいのかということ、考えていくというふうに意見をもてたらよいのではないか。</p>
会長	<p>その辺はお互いに意見を出し合い審議していただきたい。 他に。</p>
B委員	<p>質問だが、他の市のインターネットを見たが、基本構想とか基本計画とか、皆同じように立派なことが並んでいるが、そういう意味で西東京市の特色、新市建設計画の基本理念だが、他とは違うところ、特色というところはどの辺にあるのか。</p>
D委員	<p>たぶん福祉が一番上にあるのが特徴かと思う。他市も福祉はあるが下のほうにある。 一番最初に出ているのが特色ではないか。</p>
桜井主査	<p>新市建設計画をつくっているベースは、新市将来構想という市民の方につくっていただいたものがある。 つくり方はワークショップとかやりながら、普段感じている生活課題を出し合って、それを解決するためにはどういう事業をしたらよいのかということ積み上げてつくっていった。 生活の中で感じている課題ということ言えば、当時は介護保険が導入されるという背景があったので、福祉の分野に関心を持っている人が多かったということがある。 これらの背景を踏まえ、下から積み上げボトムアップで新市将来構想つくっていったということから、市民の皆さんの関心の強い福祉分野が前面に出てきたということが考えられる。 この考え方は新市建設計画にも関わることで、先程、重点施策に高齢者の部分がないというお話しがあったが、新市建設計画の重点施策である「情報化の推進」ということ一つとってみても、高齢者の方に情報化を通してのサービスの提供ということが考えられる。 たとえば、直接利用施設へ行かなくても、インターネットを通じて健康についての相談等ができるというようなものも考えられる。 重点施策として4つに分けてしまうと見えない部分があるが、根底の中には高齢者の方に対する施策もそこには含まれることになる。 4つの重点施策を具体化していく中では、今言ったことを考慮して重点施策をすすめていこうといろいろな部署が動いている。</p>

B 委員	<p>基本構想というのはほとんどどの自治体でも同じようなことが書いてある。</p> <p>西東京市らしさを出していくのは計画の方だと思う。</p> <p>自治体が担当している業務は全国どこも同じであるので、基本構想には特色は出てこないというのが実態だと思う。</p>
E 委員	<p>ここに出ている6つの項目は21世紀フォーラムなどでまとめていったものである。特色を出すというのはこれからの計画で、例えば公園に特色を持たせるとか、福祉の中の方法を充実させるとかといった手法で出すようにし、人間の生活の基本というのは同じであると思う。</p> <p>先ほどの市民意向調査の結果で意外だったのは、未来を担う若者や子育てが結果的に薄いと思う。</p> <p>何か特徴を求めたいと思いながら、市民が求めるのはどこも同じだという印象である。</p> <p>ついでだが、さっきモニタリングをして欲しいとあったが、だいたい5年くらいで計画の見直しはあったと思う。総合計画についてもあると思う。</p>
会長	<p>基本構想というのは一種のビジョンなので、ある程度長期の見通しを立てて、具体的な施策の計画というのは世の中や人口も変わってくる。ただ、5年で見直すのか3年で見直すのかは世の中の変化を見ながら変わっていくと思う。</p> <p>ただ我々に課せられたのは10年なら10年を見通して計画をたてていくことになる。その先は次の世代にバトンタッチしていくことになると思う。</p> <p>ここに出ていることは新市になったからと新しく出ていることはない。</p> <p>先程コミュニティの話とかあったが、今までしたことプラスしてどうという考えを加えていけばよいか。</p> <p>コミュニティはいっぱいある。それぞれのコミュニティの持ち方でよいと思う。考え方を強く打ち出さない方が自由でよい。</p>
B 委員	<p>私はそういうのもコミュニティだと思うが、防災を考えた時のご近所同士の助け合いもまたコミュニティではないのか。</p>
会長	<p>防災市民組織というのがある。</p>
B 委員	<p>そんな大きなものではなく、隣近所のコミュニティもあってよい。町会があるところはしていると思うが。</p>
会長	<p>そういう自治会をやめてしまう人が増えている。組織とは言っても、人にやれとは強制できない。</p>
E 委員	<p>いろんな所があると思う。ふれあいのまちづくりというのが田無であるが、保谷の方ではまた違った形であるのか。</p> <p>田無の方では小学校区ごとに、ふれあいのまちづくりという、社会福祉協議会が関わっていると思うが、一般市民のコミュニティを活発にしようという組織がある。</p> <p>小学校区ごとにできたので、9年間かかりやっとできた。そういうものが谷戸にもあるが、それがどれだけ機能しているかは、各コミュニティにより特色はあると思うが、活かされればよいと思う。</p> <p>色々試みているがどう充実させるかは住民の意識の問題である。</p> <p>その意識をどう啓発するかというのは、市の方でも生涯学習でできるかもしれない。</p>

H 委員	<p>育成会の組織もあるし、PTAの組織もある。老人会とか町会とかたくさんあるが、どこかで連携すれば充実してくる。しかしそれは難しい。</p> <p>旧保谷の方は遅れている印象がある。私の地域では隣組である。それは皆ごみの関係のためでけにあり、自治会のような総合的な組織というのではないと思う。</p>
E 委員	<p>青少年の育成会に属していると、中学や小学校のPTAや社会福祉協議会からもいろいろなご意見が聞ける。</p> <p>その時に組織の力をどこかでまとめるともっとパワフルになる。しかし、一緒に行事をするということが非常に難しい。</p> <p>意見交換をする場はあるが、それを実行する時はせいぜいどこかの団体でやることを協力する程度である。</p> <p>リーダーの育成を生涯教育の中で力を入れてもらえれば、いろいろなコミュニティが育っていくと思う。</p> <p>私はふれあいのまちづくりに関わっていたことがあるが、田無の方で全体の様子を聞いてもなかなかそこで充実していかない。まちづくりの委員会はできているが、そこで地域の方が協力し合って人間関係を深めていくというところまではなかなかいかない。</p> <p>各地域の育成会で話し合おうと言っても、育成会の行事のために集まっていて、本来の目的にかえて話し合いをするまでには至っていない。行事をこなすことにおわれている。</p> <p>意識的にモデル地域とか、旧田無にも地区会館とかあるがその利用運営や自分たちの団体が使いやすいようにという話に終始してしまっている。この拠点に地域の人が集うとか、地域のためにここを使うという発想ではない。地域のどこを拠点に人がコミュニティをつくっていくのかというところを、発想に入れていきながらリーダー教育システムを考えなければ、コミュニティがバラバラで、いざという時に地域の団体が連携できるかという不安がある。</p> <p>社会福祉協議会などもまちづくりについて団体に呼びかけるが、団体の人は「私たちは自分たちの活動をするために団体を組織しているのになぜまちづくりに呼ばれるのか」ということでなかなか共通認識をもてないというところがある。それぞれ立派にリーダーをやっている団体が、まちづくりという点では一步上にいけない。</p> <p>コミュニティの形成はあるがそれがどう連携していくのか。市の中で全体的に仕組みとして何かつけれないか。</p> <p>先程の若い人もというところでは、これから人口推計を計ると高齢者は増えていくので福祉を充実させるのはわかるが、私が子どもを育てる時には住む所を考える。教育費の補助がよい所を選んで転々としても違和感がないという人はいる。</p> <p>若い人が住みつづけたいと思うことをここに入れたい。</p> <p>意識調査の中で子どもたちに直接聞くというのはよいと思った。</p> <p>未婚の20代後半の人がこれからもここに住みつづけたいという所に、税金を払いつづける。そういう意見を活かしたい。</p>
H 委員	<p>私はマンション派だが、もう6年になり今度はどこに住もうかなと思う。コミュニティもない。マンションの管理組合の理事長をしているが、若い人は生活のため昼間ほとんどいない。そして転々として地域にほとんどいない。</p> <p>コミュニティにしても戸建てだけでなくマンションの方も巻き込んでいくようなことを考えなければならない。</p> <p>大型マンションの建設もあるが、人が動くばかりで人口は増えない。そう</p>

D 委員	<p>いう人たちがマンションを出て、戸建てを購入して土着していくようではなければならない。</p> <p>個別の実施計画で若い人にも子育ての人にもまた高齢者にもきめ細かい政策をしていくことが必要である。</p> <p>今後いろんな実施計画の各論に入っていった時、綿密な政策をやっていくことが必要である。</p> <p>今、大都市で一番求められているのは、子育てや大地震が起きた時の不安対策というのが求められている。</p> <p>西東京市の総合計画の中では、今まで物の豊かさの中できたが、ふと振り向いてみれば子どもを育てるのにどうしたらよいかとか、大地震が来た時にどうなるのかとか、誰が自分を見守っていてくれるのかというのは、物の豊かさではなく心の豊かさである。</p> <p>そういった視点を総合計画の中で打ち出せたら、西東京市の総合計画というのはほかと違うと見ていただけだと思う。</p>
会長	<p>大変貴重なご意見でした。</p>
B 委員	<p>コミュニティはあるところにはたくさんあるが、小さいグループのエゴでうまくいかないというのが課題である。</p> <p>それをどうしたらよいかというのが行政の課題でもあるし、コミュニティの人たちの課題でもある。コミュニティの人たちは課題と思っていないかも知れないが。</p> <p>それをどうしたらよいか。行政が全面に出ると反発する。サポートをして意識を高める必要がある。具体的にどうするかということだが、ネットワークをつくり、話しをしていく機会があれば意識は高まると思う。</p> <p>ネットワークをつくるサポートを行政がつくる必要がある。放っておくとコミュニティ同士というのは反発をしあい、くっつくというのはない。</p> <p>まちづくり協議会というのは一つのツールとして役に立つ。それを総合計画の中に位置付けていくというのが必要である。</p>
A 委員	<p>先程お話しを伺っていて、私も 10 何年前に田無に来て、それまで社宅暮らしで転々としていた。社宅というのは余所者なので、子ども達が地元の祭りにも参加できず寂しい思いをした。</p> <p>やっと町内会に入れると思っていたら、私のところには町内会がない。市役所に行って聞いたが、自治会はあるところとないところがあると言われた。私は年を取ったら地域密着で何かしなければならぬと考えていた。</p> <p>普通の人は学校のつながりで上がっていく。但し卒業すると何もなし。寂しい状況になる。</p> <p>高齢者は自分からはなかなか動かない、誰かがやるとわっと集まる。今まで出てこなかった人が 60 才を過ぎると皆出てくる。異業種交流会が盛んだが、コミュニティに集まるということが芽生えているので、行政または力のある人がまとめていくということをしなければ、これからますますだめになると思う。そういう方面で何かできないかと思う。</p>
会長	<p>私も同じ立場で、働いている時は職場人間で地域とは無縁だった。ようやく最近になってご近所の人分かるようになってきた。</p> <p>生ごみは一年交代で拠点を変えていき、リサイクルごみは 1 ヶ月交代で変えていくという。</p>
E 委員	<p>不思議なのはコミュニティが大事と言いながら、町内会にしても育成会に</p>

	<p>しても誰もやりたがらない。</p> <p>私が住んでいる所は160世帯の町内会があるが、いろいろな町内会が集まる機会にいくと消えている町内会がたくさんある。</p> <p>町内会の方自体が町内会は必要ないと思っている。市報を見ていけばよいので回覧版は必要ないと考えているので、町内会のお世話をする人は非常に少ない。</p> <p>総会があるたびにその役割を決めるのは大変である。</p> <p>ネットワークをつくってもっと緊密にしなければならないと言っているのに、誰もしたがない。それこそ意識改革からしていかなければならない。</p>
○委員	<p>コミュニティリーダーの育成というのは必要である。</p> <p>生涯教育の中で、もっと出席しやすいタイトルで募集して育成していく。</p> <p>日本人の特徴かもしれないが、出る釘は打たれるというかしゃばりたくないというのがあつた。たしかにリーダー不足だと思う。</p>
○委員	<p>ヨーロッパの入学試験を見ても、討論すること自体が試験だが、日本にはない。小学校の時から授業の中で意見をたたかわすということ、しかもユニークな意見というのはたたかれる。そういう国民性である。</p> <p>もっと意見を出して主張するという教育が必要である。</p> <p>個性を重んじる教育が必要である。</p>
B委員	<p>教育を変えるのは教師から変えなくてはならない。</p> <p>人間の意識は単純である。横浜で数年間ベンチャーの育成に携わってきた。ベンチャーはやっても仕方ないというのが定着した意見だったが、手を変え品を変えやってきて、ベンチャーというのは経済の活性化に必要であると、国も応援する雰囲気になってきた。</p> <p>数年あれば人間というのは変わる。</p> <p>コミュニティについても地道な宣伝啓蒙活動で変わるのではないかと。</p>
E委員	<p>学校教育と地域交流は必要だと思う。私は田無二中であり谷戸二小の地域だが、先生の個性で変わる。校長先生がOKと言えれば交流ができるが、壁をつくる方だとまったくなくなる。</p> <p>これから学校も総合学習の時間が多くなるが、市の学校教育の市政が柔軟になると変わっていくと思う。</p> <p>学校の壁は非常に厚いと思う。</p> <p>公民館にしても中学生も使えるとか。</p>
会長	<p>(その他)</p> <p>来年の1月、2月、3月の日程を固めていきたい。</p>
池澤主幹	<p>この間、夜間開催のご要望があり、今回は夜間も含めて日程の調整をお願いしたい。</p> <p>都合の悪い日にバツをつけて12月の10日までに事務局宛にご返送いただきたい。</p> <p>それを集約して、次回の審議会の中で日程を固めさせていただきたいと考えているので、ご協力いただきたい。</p>
A委員	<p>夜間は何時からか。</p>
池澤主幹	<p>まだ決まっていないが、開始が午後5時か6時くらいからと考えている。</p>

会長	<p>それでまた不都合があれば、以降の審議会で調整させていただきたい。</p> <p>次回のことを含め要望したい。</p> <p>これでしたら、12月27日に1月のスケジュールが決まる。</p> <p>もう少し早く、少なくとも2月の時に4、5、6月を決めていただきたい。</p> <p>これは私からの要望であるが、皆さんの方はどうか。</p> <p>それでは、他になければ第4回の審議会を終わりたいと思います。</p>
----	---